

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
社会福祉学専攻博士後期課程
博士論文審査結果の概要

研究科長・社会福祉学専攻主任
教授 福島喜代子

博士論文提出者： 24GS-D51 高橋 誠一郎

タイトル： 児童養護施設における家族再統合
— 一家庭復帰取り組みに関連する要因と家族像の形成 —
**Family Reunification in Residential Child Care:
Factors Associated with Returning Home and the Formation of Family Images**

〈審査結果の概要〉

1. 審査委員会

上記論文が、博士(社会福祉学)の学位請求論文として2025年12月16日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第6条の規定により、下記の5名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	ルーテル学院大学教授	福島喜代子
副査	ルーテル学院大学教授	原島 博
審査委員	ルーテル学院大学教授	加藤 純
審査委員	ルーテル学院大学教授	高山由美子
外部審査委員	元日本社会事業大学教授	宮島 清

2. 書面審査

書面審査は、学位請求論文提出直後から口述試験が行われた2026年2月13日までの約2カ月にわたって上記5名の審査委員によって個別に行われ、あらかじめ専攻教授会で決定していた「博士論文評価表」によってそれぞれ評価を行った。また5名の委員は総合的な評価を記述した。

書面審査による評価は、先行研究の検討、研究方法などの項目はAであった。結果・分析および考察については2名がB、表記については3名がB、そして、文章の論理性、文献について1名

がBであり、B(=普通)と評価された項目が複数あるものの、それ以外はA(=すぐれている)と評価された。総合評価は5名の委員全員が「優」であった。

3. 最終試験(口述試験)

最終試験(口述試験)は、2026年2月13日に、上記5名の審査委員に加え、社会福祉学専攻の以下の者が参加して、合計10名で行われた。

教授	石居基夫
教授	山口麻衣
准教授	浅野貴博
助教	岸 千代
助教	鈴木喜子

口述試験は、学会発表の形式をとって行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会の口頭発表と同様に、パワーポイントを使って発表し、終了後、試験委員の質問に回答した。質問は、家庭復帰取組群に関連する要因等の表記について、家族像の一般的な受け取り方について、「健全」という言葉について、子どもの発達段階に応じた家族イメージについて、ソーシャルワーク実践への示唆のレベル間の連続性について等であった。それに対して、学位請求者は一定以上の説明力をもって回答をした。

質問やコメントは、論文の記述の仕方やバランス、細部についての疑問を正す内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための加筆・修正の提案であった。

口述試験の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた口述試験評価表によって行われた。評価の結果は、概念化、学術的な討論の能力、専門家として説得的に話す能力、資料のレベルを含めて全てA(=すぐれている)であった。口述試験の総合評価は、5名の審査委員とも「優」であった。

4. 最終審査

博士論文審査の判定合議は以下のとおり行われた。

博士論文の書面審査の結果が専攻主任から報告された後、口述試験についての評価の結果が報告された。その後、審査委員による合議が行われ、全員一致で、高橋誠一郎氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

5. 最終審査の報告と承認

最終審査の決定後、大学院社会福祉学専攻教授会が招集され、専攻主任より審査結果が報告され、その承認がなされた。

(以上)